

第35回 社会言語科学学会大会

Program of the 35th Biannual Meeting of the Japanese Association of Sociolinguistic Sciences



日時 2015. 3.14 (土) ~ 15 (日)

場所 東京女子大学

受付開始: 14日(土) 9:30~ / 15日(日) 10:00~

〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1

交通 ①西荻窪駅 (JR中央線・総武線, 東京メトロ東西線乗り入れ) から北口より徒歩12分。または北口 (1番のりば) より吉祥寺駅行バスで「東京女子大前」下車。
 ②吉祥寺駅 (JR中央線・総武線, 京王井の頭線) から北口 (3番のりば) より西荻窪駅行バスで「東京女子大前」下車 (※その他のアクセスにつきましては、ホームページをご覧ください)
参加費 (大会論文集1冊込) 会員: 4,000円 / 非会員: 5,000円 / 学生会員: 3,000円 / 学生非会員: 4,000円 (事前申込み(割引)の期限等につきましてはホームページをご覧ください)
お問い合わせ先 社会言語科学学会研究大会委員会 E-mail: jass-desk@bunken.co.jp http://www.jass.ne.jp/another/?page_id=2

3月14日(土)

9:30 受付開始 (9号館1F 入口付近)

10:00 開会

時間	セッション1 (9号館1F 9101教室) 司会: 柳田 直美 (一橋大学)	セッション2 (9号館1F 9102教室) 司会: 大場 美和子 (昭和女子大学)	セッション3 (9号館1F 9103教室) 司会: 坊農 真弓 (国立情報学研究所)
10:00 - 10:30	宮窪手話の「数」に関する表現 — 日本における危機言語 — 平 英司 (関西学院大学), 矢野 羽衣子 (無所属), 松岡 和美 (慶應義塾大学)	フォリナートークに対する意識についての考察 — 日本語母語話者と日本語非母語話者の語りから見えてくること — 嶋原 耕一 (東京外国語大学)	What Is Left, What Is Passed on: Transformation and Sustainment of Indigenous Culture through Communicative Multiple Literacies 長谷山 康一 (Simon Fraser University)
10:35 - 11:05	外来語が新たに獲得しつつある社会言語学的機能 — 異なる発話場面における既存語との使い分けにみる — 久屋 愛実 (University of Oxford (UK))	在カナダ日本人親の英語話者が参与する状況における言語行動意識 秋山 幸 (早稲田大学)	The Australianの中の日本 — 国際司法裁判所における調査捕鯨の違法判決報道と読者のコメントの分析 — 山口 征孝 (The University of Queensland)
11:10 - 11:40	偏った頻度分布はどこに宿るか? — 表層パターンの分布分析に基づく統語発達に関する一考察 — 吉川 正人 (慶應義塾大学)	ナラティブの協同構築による自己開示 — 英語会話と日本語会話の比較 — 岩田 祐子 (国際基督教大学)	ニューハーフの彼女を親に紹介するために — 社会的言説との関係において行われるアイデンティティの再カテゴリー化 — 松谷 優花 (大阪大学)

13:00 - 13:05 開催校ご挨拶 (23号館 23101教室)

13:05 - 13:45 大会発表賞授賞式 (23号館 23101教室)

徳川賞授与式 優秀賞 親族間で用いられる他称詞の運用—話題の人物を捉える視点と表現形式—
『社会言語科学』第16巻 第1号 109頁~126頁 小森 由里 (国際基督教大学)

時間	シンポジウム (23号館 23101教室) 「共生の言語・コミュニケーションは可能か」
14:00 - 17:00	【発題者】 中国帰国者の今—ことばの問題を中心に — 小川 珠子 (中国帰国者定着促進センター) 外国人看護・介護人材の受け入れと課題 嶋 ちはる (国際教養大学) 外国につながる子どもの自立と社会参加に向けての言語環境とその課題 高橋 清樹 (NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ) 外国人集住都市における人財育成—20年、30年後の浜松のために— 堀 永乃 (一般社団法人グローバル人財サポート浜松) 【ディスカッサント】村岡 英裕 (千葉大学) 【企画担当】岩田 一成 (聖心女子大学)、浜田 麻里 (京都教育大学) 【司会】浜田 麻里 (京都教育大学)

17:30 懇親会 (同窓会館(72年館))

3月15日(日)

10:00 受付開始 (9号館1F 入口付近)

時間	ポスター発表
10:30 - 11:45	司会: 安井 永子 (名古屋大学) (24号館1階ラウンジ・2階ホワイエ) P-01 ブラジル人日本語学習者による不同意の特徴 堤 涼子 (広島大学), 岡崎 渉 (広島大学) P-02 授受補助動詞テクダサルとテイタダクの意味の異なり—与え手に感謝を述べる場合— 京野 千穂 (名古屋大学) 計12件

時間	セッション4 (9号館1F9101教室) 司会: 橋本 直幸 (福岡女子大学)	セッション5 (9号館1F9102教室) 司会: 生天目 知美 (東京海洋大学)	セッション6 (9号館1F9103教室) 司会: 榎本 剛士 (金沢大学)	セッション7 (9号館1F9104教室) 司会: 関崎 博紀 (筑波大学)
13:00 - 13:30	「反論」における日本人英語学習者のHedgeの使用について 野澤 佑佳子 (早稲田大学)	The Organization of Turn-Taking in a University Language Lounge バターフィールド ジェフリー (神奈川大学)	連鎖をつなぐ資源—語りにおける先行ジェスチャーの繰り返しについての会話分析研究— 安井 永子 (名古屋大学)	在日中国人留学生同士による中国語ベースの会話におけるコードスイッチング—機能的分析を中心として— 李 敏 (立命館大学)
13:35 - 14:05	「改まり」とは何か—指標性の観点から考える言語表現の社会的意味— 李 址遠 (早稲田大学)	次話者として選択されていない会話参加者の発話権の取得 山岸 宏明 (早稲田大学修士課程修了)	確認要求に用いられる認識的スタンス標識としての「なに」について 遠藤 智子 (筑波大学), 横森 大輔 (九州大学), 林 誠 (イリノイ大学)	現代韓国語における「-a/e tulita(〜てさしあげる)」に関する一考察—利益・不利益の観点から— 金 アラン (上智大学)
14:10 - 14:40	親密な関係性では不満はどのように表明されるか—中国人夫婦・日本人夫婦の比較— 呉 雪箏 (金沢大学)	接触場面における共同発話 大久保 加奈子 (京都府立大学)	他者開始修復連鎖においてものを「知らない」ことはどう扱われるか 平本 毅 (京都大学)	中国人日本語学習者における「〜テモラウ」文の言語形式の使い分け—依頼機能を中心に— 張 麗 (広島大学)
14:45 - 15:15	日本語とスワヒリ語における「勧誘の断り」の対照研究—断り後の展開に着目して— 中垣 友江 (大阪大学)	三者間の共同作業における言語行動の目録対照分析—発話の重なりに着目して— Tsoy Ekaterina (東京外国語大学)	ほめとして理解可能な発話に対する聞き手の「そうですか?/そう?」の応答の分析 張 承姫 (関西学院大学・日本学術振興会)	敬語表現としてのテモラウ文の日韓対照研究—「道案内」の調査を通して— 林 世涓 (筑波大学)
15:20 - 15:50	「ゲームの説明と準備」という活動における「冗談」—ラポールの維持・強化と成員性に着目して— 臼田 泰如 (京都大学・日本学術振興会)	日本人と外国人の英語による初対面会話における関係性の構築—Japan/Japanese (+NP)をめぐる相互行為の分析— 山本 綾 (昭和女子大学)	マルチアクティビティとしての歯科診察—関与配分の相互行為的調整— 坂井田 瑠衣 (慶應義塾大学), 諏訪 正樹 (慶應義塾大学)	